2023 年度点検・評価シート

・**評価の視点**【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

I 【現状】**原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。**

対象部局	18 国際関係学部	責任者	松本弘
基準４	教育課程・学習成果	総合自己評価	A

★基準４の総合自己評価の理由を簡潔に解説してください。

≪回答≫アジア地域の諸言語や地域研究科目を中心に、国際理解のための社会科学系と人文科学系の科目を加え、それらを 4 年間バランスよく配置するとともに、１年から４年までのすべての学年で演習を必修として、学習成果の確認を行っている。

点検・評価項目 (1)	**4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。**	
評価の視点１【基礎要件●】	方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。	A
評価の視点２※【基礎要件●】	方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート７	A
点検・評価項目 (2)	**4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。**	
評価の視点１【基礎要件●】	方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。	A
評価の視点２【基礎要件●】	方針は、学位授与方針に整合している。	A
評価の視点３※【基礎要件●】	方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート７	A
点検・評価項目 (3)	**4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。**	
評価の視点１※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1＊学則、A4-43Web サイト シラバス	A
評価の視点２※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー	A
評価の視点３※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ	A
評価の視点４※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。根拠資料→A1-1＊学則、B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き	A
評価の視点５※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート 9,10	A
評価の視点６※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス	A
評価の視点７※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き	A
評価の視点８	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。＊各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点９※	教養教育と専門教育を適切に配置している。根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き	A
評価の視点１０※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ＊各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A

評価の視点１１	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。 ＊各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
点検・評価項目(4)	**4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。**	
評価の視点１※ **【基礎要件●】**	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート 9	A
評価の視点２※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」	A
評価の視点３※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制	A
評価の視点４	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。 ＊各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点５	学習の進捗と学生の理解度の確認 ＊各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点６※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 （履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む））。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項,（オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入）	A
評価の視点７※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス ＊各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	C
評価の視点８	1 授業当たりの適切な学生数を設定し、運用している。 ＊各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	A
評価の視点９	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みを実施している。＊各学科の根拠資料を確認のうえ、総合的に評価してください。	C
点検・評価項目(5)	**4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。**	
評価の視点１※ **【基礎要件●】**	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPA による成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-1＊学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料	A
評価の視点２※ **【基礎要件●】**	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-1＊学則、A4-36＊学位規則、基礎要件確認シート 10,12	A
点検・評価項目(6)	**4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。**	
評価の視点１※ **【評価要件○】**	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせて設定することが望ましい。	A

	根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果 ＊学科の状況（根拠資料）を総合的に判断して自己評価してください。	
評価の視点２※ 【評価要件○】	学生の学修成果の測定方法を開発している。 ≪学修成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果 ＊学科の状況（根拠資料）を総合的に判断して自己評価してください。	A
点検・評価項目(7)	**4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。**	
評価の視点１※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023 年度点検・評価シート、B2-52 会議録（または準ずるメール記録）:（開催日）2023 年度自己点検・評価について	A
評価の視点２ 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っているか。	A

★項目(7) 4-7①改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。

≪回答≫授業認識アンケートの結果に基づく各授業の改善努力の奨励はもちろんのこと、卒業論文成績評価の向上、ルーブリック評価表などの修正による卒業論文ルーブリック評価の改善、単位認定などによる語学検定受験者数の増加、世界遺産検定認定率の向上、「企業と雇用」「インターンシップ・イン・アジア」「ホスピタリティ・マネジメント」でのインターンシップ参加率向上を図っている。	≪根拠資料≫ **18-C4-1：教授会議事録、卒論ルーブリック試行資料、インターンシップ関連科目シラバス**

Ⅱ現状を踏まえ、学部全体の長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	特に、以下の３点につき、取り組みを続けている。 １，現地研修：アジア理解教育の柱のひとつであるアジア言語教育において、実際に外国を体験する学習として現地研修は、学部創設以来の長きにわたって重視され、継続されてきた。コロナ禍により中止を余儀なくされ、その再開が学部の最優先課題のひとつとなった。ようやく、昨年度に８か国中４か国（韓国、インドネシア、ベトナム、オーストラリア）への渡航型現地研修を復活させることができ、今年度は８か国への渡航型現地研修の実施を予定して、派遣先の大学とともに準備をほぼ終えていた。ところが、旅費の高騰などにより研修参加を希望する学生が昨年度より激減し、派遣での現地研修は４か国（中国、韓国、インドネシア、タイ）にとどまってしまった。来年度の状況は不明だが、可能な限り８か国への渡航型現地研修を実現させたい。 ２，キャリア教育：アジア理解教育の成果を、学生が社会人となって発揮してもらうため、ジェネリックスキルの習得から就職活動の支援まで、キャリア教育の拡充に力を注いできた。１年生の演習科目であるチュートリアルの時間内に、キャリア教育の内容を盛り込んで、入学当初から就職にかかわる興味関心を醸成させている。また、「問題解決学入門」「企業と雇用」「ホスピタリティ・マネジメント」「世界遺産講座」「旅行産業論」「ＳＰＩ対策講座」などのキャリア科目を設けることにより、社会人になる準備を進めるとともに、学生各自の希望に応じたキャリア教育の提供に努めている。特に、「企業の雇用」における企業へのインターンシップ実施の授業内容は、マイナビ主催の第５回「学生が選ぶインターンシップアワード」（2022 年度）で、文部科学大臣賞を受賞した。 ３，初年度教育・リメディアル教育：以前から、学生の学力低下や学生間の学力格差が指摘されており、これらに対応するため、初年次教育やリメディアル教育の拡充を長く図ってきた。１年生の演習科目であるチュートリアルでは、ノート・テイキングや図書館の利用方法から発表の仕方、レポートの書き方、情報リテラシーまで、学習・研究方法の基礎およびその実践にかかわる教育を行なっている。また、英語の１年時必修科目であるグローバルイングリッシュを、入学時のプレイスメントテストによる能力差別の９クラス編成として、下位３クラスにてリメディアル教育を行なっている。

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった学科の新たな問題点や課題について、学部としてどう捉えるか今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし 2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	コロナ禍により中止や停滞を余儀なくされたさまざまな教育活動は、ほぼコロナ禍以前の状況に復したものの、一部ではいまだに改善の余地が残っている。おおむね良好な状況については、その傾向を維持したまま、改善の余地がある部分については、速やかに対処していきたい。

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B票No. or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
①	3	2021	(国際関係学部)ホスピタリティ・マネジメント科目の推進	本科目は 2019 年度より導入された新カリキュラムの目玉で、導入 3 年目を迎える。内容は、学生に変化・発展する観光・旅行業界に関する知識の増強をはかるとともに、外国人観光客との実際の対応を学ぶものである。本学の理念である多文化共生を実際の場で活用できる力をつけることを目指している。	本科目は、ホスピタリティという観点から観光や旅行をとらえなおし、新サービスの展開力や実際の観光客（国内・海外）との対応力を上昇させることを目的とする。就職面での支援も含めることにより、観光立国を目指す我が国の人材育成に貢献する。	A(100%)： 航空会社関連就職複数名 B(80%)：インターンシップ参加 10 名 C(50%)：インターンシップ参加 5 名 D(20%)：履修学生 50 名	2023：D 2024：C 2025：B 2026：A
①	4	2021	(国際関係学部)「企業と雇用」正課として位置づけるインターンシップの実施	本科目は、2020 年度学長プロジェクトで採択されたプログラムを学部内で継続した取り組みとして展開している。2023 年度も継続して実施予定。企業研究、心構え、職業体験としての意義の確認、マナーの徹底等授業において準備を行うことで、インターンシップを採用目的ではなく本来の教育的効果のあるものとして位置づけ、学部生のキャリア意識の醸成を目指している。	採用目的でない教育的効果のあるインターンシップを実施することで、キャリア意識の醸成はもちろんのこと、受講した学生の教育効果のみならず周囲の学生への波及効果が期待できる。また、コロナ禍における就職環境の悪化が予測される中、正課として位置付けることで、学部学生のモティベーション向上につなげ就職支援の役割も担う科目とする。	A(100%)： 学部就職率学内トップ B(80%)：インターンシップ参加率 90% C(50%)：インターンシップ参加率 80% D(20%)：インターンシップ参加率 70%	2023：D 2024：C 2025：C 2026：B 2027：A
①	6	2023 (2022～継続)	(国際関係学部)初年次教育の充実	入学早期からの初年次教育を拡充させる。新カリキュラム導入で半期科目となり，半期ずつの集中した授業体制をとる。学部独自の教科書をさらに改善を進めつつ，キャリアを意識したグループワーク（合同チュートリアル）を充実させて，4 年間の学習マインドをセットし，基礎スキルの習得を行う。	グループワーク中心のアクティブラーニング形式のプログラムにすることで、主体的学修態度の基礎作りができる。入学早期の段階でのチュートリアルを超えた仲間作りが行える。これにより孤立しがちな学生を作らないことと、大学への帰属意識を芽生えさせる。また、4 年間を通じて必要となるディスカッションスキル（主張のスキル、議論深化のスキル、アイデア拡散・収束のスキル等）の基礎を身に付けることができる。	A(100%)： 学部就職率学内トップ B(80%)：退学数の減少 C(50%)：合同チュートリアルの実施＋新教科書 D(20%)：新教科書の導入	2023：D 2024：C 2025：B 2026：A

V【内部質保証委員会による点検・評価】

2022 年度＜所見＞
COVID-19 の対応も、語学や演習など、履修生の少ない科目は対面式で、履修生が多い科目は対面式とオンライン授業を併用として授業を行ない。COVID-19 による教育上の弊害が生じないよう努めた等、学部として対応していることは評価できる。 学習成果の可視化として、卒論ルーブリックを施行していたり、卒業時アンケートを学部として実施していたりしており、改善に結びつけていることは高く評価できる。また、卒業論文の提出状況、DACIX 制度（ボランティア活動などの評価）、世界遺産検定認定率（「異文化理解特殊講義 2・3（世界遺産講座 I・II）」）認定率、現地研修（夏季休暇中の語学研修、2021 年度はオンライン）参加率複数の評価指標が設定された。これらの測定結果は今後、基準 4 の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みに期待する。基準 4 における国際関係学部の取り組みは DACIX 制度をはじめ、本学では先進的事例であり、大いに評価できる。
2023 年度＜所見＞
自己総合評価「A」との回答が示す通り、「チュートリアル」を中心とした初年次教育から、専門分野を体系的に学ぶための科目配置（必修科目「国際関係論」と選択必修科目（4 つの地域研究科目）の配置）、専攻分野の選択やキャリア形成につなげるためのクラスター（科目群）の設置（「国際協力・多文化共生」「国際ビジネス」「異文化理解」）、新カリキュラムで導入した「ホスピタリティ・マネジメント科目」や「企業と雇用」などを中心としたキャリア教育に至るまで、バランスの良い教育体系と学生の主体的参加を促す数多くの科目配置により、DP 及び CP を実質化する充実した教育課程が整っている。学部創設以来の特徴ある教育を維持しながら、カリキュラム改編や学長プロジェクト等を通じて教育課題に継続的に取り組まれていることを高く評価したい。一方で、点検・評価項目(4)4-4 の評価の視点 7（授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示）及び評価の視点 9（学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習（予習・復習）を奨励する取り組みを実施している。）に関しては、自己評価は「C」としているものの、それに対する問題点や課題が示されていなかった。 なお、2 学科の DP と CP が全く同一内容であることは学位が異なる関係上、見直しが必要ではないだろうか。貴学部の国際関係学科と国際文化学科のシートの記載内容も、諸資格科目の履修学生数を除き同じであった。2 学科の DP と CP が同じである以上教育内容も同じなのだろうが、本シートの記述で相違点を挙げることはできないのであろうか。2 学科に分かれている以上その違いを明記されることを希望する。

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部局の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 （評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 （評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

＜注＞「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。
解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準 4 教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。